



加藤 元の



と暮らして
みませんか

12

前回に引き続き、上手なトイレのしつけ方について、さらにふれ
ておきましょう。

犬は、子犬でも自分のベッドや敷物を汚したり、自分の体が汚れることは嫌いです。子犬にベッドを与えても、ベッドの中で排便、排尿をすることはありません。ベッドから出て、必ず別の近い所ですますから、その性質を上手に伸ばしてやるのが、トイレのしつけの重要なポイントになります。犬が排便、排尿をしたくなっている気配があれば、必ず先手を打って決められた場所（トイレ）に連れて行ってやります。そして、

トイレのしつけ

うまくできたらすぐほめる

トイレが済むまで待つてあげ、うまくできたら、その場でほめてやります。ほとんどの子犬は、早ければ二三日、遅くとも一週間も続けてやれば、上手にできるようになるものです。

どうしてもうまくいかない場合には、子犬に病気があると考えるとやらなければなりません。

また、よいトイレのしつけができていたのに、そのしつけが崩れた場合にも同じことが言えます。こんな時には必ず、原因が病気なのかどうかを病院で確かめてもらってください。行動上の問題ではなく、病気であれば、明確な診断と治療、費用などの説明を受けてください。常識的に納得できない場合は、セカンドオピニオンとして、別の病院で見てもらってください。早い時期に完全に解決してあげる必要があります。

また、病気ではない場合は、しつけ訓練のインストラクターを紹介してもらいましょう。

一日のトイレの回数ですが、子犬で食餌の回数プラス二 三回、成犬では、食餌の回数、またはプラス一回が目安です。子犬では、一日三食が平均ですから、五 六回、成犬では一日一回の食餌が平均ですので、トイレは一日一回か二回ということになります。

（ダクタリ動物病院・広尾病院院長、
日本ヒューマン・アニマル・ボンド・
ソサエティ会長）

《産経新聞2004年6月20日掲載》